

国際婦人デー3・6東京集会に寄せられたメッセージ
朝鮮民主主義人民共和国からのメッセージ
朝鮮学校差別に声を上げよう！
朝日友好運動の前進をめざそう

在日本朝鮮民主女性同盟

国際婦人デー東京集会にご参席の皆様は、わたしたち在日本朝鮮民主女性同盟に結集した女性たちは、こころから連帯のあいさつをお送りいたします。

わたしたちは反戦と平和、女性の権利拡大を目指し闘う世界の女性と連帯し声をあげ、力強く活動する皆さまに敬意を表します。

いま、世界的に新型コロナ感染拡大が猛威をふるうなか、日本においては女性・子どもといった社会的弱者や在日朝鮮人に対する差別的状況がつづいております。

それはわたしたちの拠り所である朝鮮学校への差別に顕著に表れています。昨年、厚労省が教職員用布製マスクを日本の幼稚園や認可外保育園に配布する一方、三月さいたま市においては同市内の朝鮮幼稚園には配布しないとすることが発覚し、これに対する批判の声が高まり、数日後に配布が認められるということがありました。

当時、さいたま市の朝鮮幼稚園マスク配布排除への抗議は、埼玉県から東京、大阪、兵庫、滋賀へと大きな運動となり、ピョンヤンやソウルでも抗議の声が上がりました。朝鮮幼稚園へのマスク配布に至ったものの、さいたま市は未だに明確な謝罪を行なっていません。

また、五月には文科省により、新型コロナ感染拡大の影響で困窮する大学生らの『学びの継続』のための学生支援緊急給付金が創設されましたが、朝鮮大学校がまたもやこの制度から排除されるという行為がまかり通っています。

文科省は朝鮮学校外しの「理由」として朝鮮大学校は「各種学校」であり、「多種多様な教育をしている」ということを強調しています。

これは「幼保無償化」制度から「各種学校」認可を受けている外国人学校の幼稚園を排除したときと同じ理由です。多様性が尊重される社会を目指すわたしたちは、決してこのような差別を容認できません。

「学生緊急給付金」からの朝鮮大学校排除は、コロナ禍対策の一連の流れに逆行するものです。

文科省は日本社会における感染拡大防止のためには休業も求め、マスクを配布するが、当事者の窮状には目を向けないという姿勢をあらわにしています。

「高校無償化」からの適用除外から一一年、「幼保無償化」からの差別から二年、コロナ禍という非常時においても差別がなりふり構わず行なわれていることをわたしたちは決して許すことはできません。

相次ぐ朝鮮学校差別は、日本社会に深く歴史的に組み込まれた差別と抑圧の構造を浮き彫りにしています。

いま、朝鮮学校差別に反対する各地の弁護士会、大学教員らが声明を発表し、日本政府の不当な差別に声を上げています。

「幼保無償化」においては、園児の親をはじめ日本の市民団体や労働団体が「幼保無償化を求める一〇〇万人署名運動」を大々的に進めており、朝鮮学校支援の輪は着実に広がっています。

在日朝鮮人の人権侵害を許さない闘いは、朝日友好運動を進めるわたしたちにとって、もっとも身近でもっとも緊急を要する闘いです。

わたしたちは心ある日本の皆さんと固く手を結び、支援・連帯の輪をさらに広げて、この暴挙を終わらせるまで諦めずに最後まで闘いつづけます。共に闘いましょう！

(『思想運動』1063号 2021年4月1日号)